

エコライフみしま

2050年カーボンニュートラルシティ表明

知っていますか？



市の鳥「カワセミ」



市の木「イチョウ」



市の花「三島桜」

未来へつなぐ 自然豊かな 快適環境のまち



第44号
2024/12/1

- 特集「デコ活」 P1~P4
- コラム「三島市民の環境問題への取組状況～アンケート結果～」 P4

デコ活～脱炭素 私にできる「デコ活」は？～

				
テレワークは移動のエネルギーを削減できる	びんやアルミ缶はリサイクルの優等生	へちまたわして脱プラスチック	家の屋根が再生可能エネルギーの発電所に！	残さず食べてごみ削減
				
自然素材、大事に永く着る、古着を活用。あなたにとってのサステナブルな服とは？	自転車で地球にやさしく健康に	自分で野菜を育ててみる。買うときは地産地消を心がける	省エネ家電で効率よく快適な暮らし	節水を心がけよう



「デコ活」のマークは次のうちのどれをデザインしたものでしょうか？

- ① ホタル ② りんご ③ 蝶 ④ 卵

(答えは3P)

デコ活とは



みなさん、「デコ活」という言葉を存じでしょうか？もしかしたら馴染みがないという方も多いのではないのでしょうか。

「デコ活」とは、2050年カーボンニュートラルを目指し、日本全体でCO₂排出量を2013年度比46%削減するため、国民の行動変容・ライフスタイル転換を後押しする目的で2022年10月25日に発足した脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動です。

●ことばの成り立ち

“デコ”は、二酸化炭素「CO₂」を減らす「DE」脱炭素 [Decarbonization] と、環境に良いエコ「E」という意味がふくまれており、それに活動・生活が組み合わされた新しい言葉で、2023年7月に環境省が公募した8、2000件の応募の中から選ばれた愛称です。

●行動のわかりやすさ

デコ活では、「デコ活アクション」というエコに向けた分かり易く、具体的な行動例が示されています。

デコ活アクション

まずはここから！



デ 電気も省エネ 断熱住宅
電気代をおさえる断熱省エネ住宅にすむ

コ こだわる楽しさ エコグッズ
LED・省エネ家電などを選ぶ

カ 感謝の心 食べ残しゼロ
食品の食べ切り、食材の使い切り

ツ つながるオフィス テレワーク
どこでもつながれば、そこが仕事場に

選んで減らす！

- ・高効率の給湯器、節水できる機器を選ぶ
- ・環境にやさしい次世代自動車を選ぶ
- ・太陽光発電など、再生可能エネルギーを取り入れる

みんなで実践！

- ・クールビズ・ウォームビズ、サステナブルファッションに取り組む
- ・ごみはできるだけ減らし、資源としてきちんと分別・再利用する
- ・地元産の旬の食材を積極的に選ぶ
- ・できるだけ公共交通・自転車・徒歩で移動する
- ・はかり売りを利用するなど、好きなものを必要な分だけ買う
- ・宅配便は一度で受け取る

その他にも、暮らしが豊かになり、脱炭素などに貢献していくものは、すべて「デコ活」です。

この運動の効果的な実施につながるよう、国・企業・自治体・団体・個人が連携する「デコ活応援団」（新国民運動官民連携協議会）も同時に立ち上げられるなど幅広く展開し、促進が図られています。

エコライフみしま第40号で「カーボンニュートラル」を特集しています。下のQRコードからご覧ください。



ポイント

2050年カーボンニュートラル…カーボンニュートラルとは、今世紀後半に地球温暖化の原因となる温室効果ガスの人為的排出量と、森林による吸収量を均衡させること。日本は2050年までにカーボンニュートラル実現を目指しています。三島市は令和4年3月18日に「2050年カーボンニュートラルシティ」を表明しています。

デコ活宣言



「デコ活」の活動を盛り上げることが狙いに、活動していることを宣言し公表する制度があります。これは個人でも組織単位でも宣言することができます。宣言すると組織については、環境省のデコ活のHPで組織のコメントと共に公表されます（個人は公表されません）。またデコ活HPにはロゴマークや絵がありますが、**ですが、宣言した組織や個人はこれを使うことができません。**

デコ活 くらしの中のエコろがけ

2024年10月下旬時点で、個人は約7,700人、企業は約1,560件、各種団体は約300件、国・自治体は約340件が宣言しており、日々増加中です。静岡県下では12の県・市・町が宣言しており、それぞれが活動しています。三島市は2023年8月29日に宣言しました。

宣言①：製品、サービス、取組展開を通じてデコ活を後押しします！
宣言②：生活・仕事の中で、デコ活を実践します！

三島市の企業でも宣言されている例があります。

デコ活の活動は今後避けて通れないものですし、実際に活動している個人や組織の方は多いと思います。活動しているなら宣言してみてくださいでしょうか。宣言は環境省のデコ活のHPから簡単に申請することができます。環境政策課でもアドバイスしてもらえますのでお気軽に問い合わせください。

三島市民ができる事



三島市で「デコ活」を実践するために、市民ができる具体的な取り組みを考えてみましょう。

●地産地消の推進

地元で生産された食品を消費することも環境負荷を減らす一つの方法です。三島市には新鮮な野菜や果物が豊富にあり、地元の農産物を積極的に購入することで輸送に伴うCO₂排出を削減できます。また、地元の農家を支援することにもつながります。

●河川の水質保全・流域周辺の環境保全

夏場など子供連れの家族など多くの人が水遊びに訪れますが、飲食物の残りや

空容器などで水系そのものや周辺の水辺を汚さないようにゴミなどを持ち帰るなどの心配りが三島の恵まれた美しい環境を守ることとなります。

●食品ロスの削減

三島市フードシェアリングサービス「みしまタバスケ」の利用 詳細は「広報みしま10月1日号綴込みの「ごみ減量トレンドイ」裏面をご参照ください。

●ボランティア活動への参加

子供たちへの環境教育や市内のごみ拾い活動など様々な環境に関する活動を行っている「三島市エコパートナー」や、ごみの減量やリサイクルに関する活動を行う「ごみ減量アドバイザー」などのボランティア団体があります。ひとりでは出来ないことも協力しながら楽しく取り組むことができます。ぜひ皆さんも参加してはいかがでしょうか。（連絡先は4ページをご覧ください。）

クイズの答え ③蝶

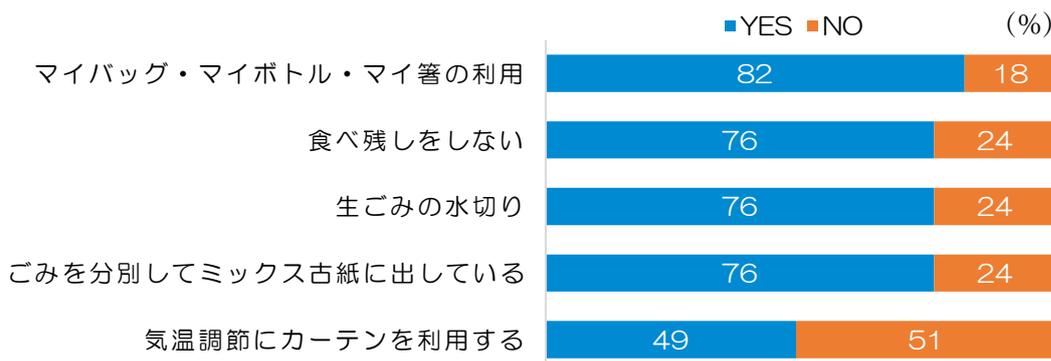
ロゴマークは1人1人の日常の取組が地球を変える大きなうねりになる「バタフライエフェクト」をイメージし、蝶のデザインとなっています。

三島市民の環境問題への取組状況

～アンケート結果～

「環境講演会」※に参加された市民の皆さんに、環境問題への取組状況についてアンケートをお願いしました。

環境問題へ取り組んでいる市民の行動のトップ5は下表の通りであり、環境意識としては比較的広く浸透していることが分かりました。※2023年12月13日 三島市民生涯学習センターにて講演



一方で、喫緊の課題であるCO₂削減に大きく貢献する、省エネ断熱リフォーム、蓄電池・省エネ給湯器の導入は全体の10%、太陽光パネルの導入は14%であり、まだまだ十分に広がっているとは言えない状況でした。

また、家電の買い替え頻度につきましては、壊れてから買い替えるという方が全体の71%であり、積極的に新しい省エネ家電に買い替えようとしている方はまだ少数でした。自宅の照明をLEDにしている割合は、平均すると58%でした。照明のLED化は市全体として着実に進んでいるのではないかと思います。

カーボンニュートラルの実現には、お金がかかる対策が多いかもしれません。財布と相談し、出来る範囲で有効な対策がより進むことが期待されます。

【編集スタッフ（市民ボランティア）】6名

エコライフみしま第43号「三島市民のエコへの取り組み」は電子版のみで発行しています。市ホームページをご覧ください。

ボランティア連絡先

三島市エコパートナー:環境政策課(055-983-2647)

ごみ減量アドバイザー:廃棄物対策課(055-971-8993)

感想・ご意見募集中

エコライフみしまのご感想・ご意見は以下へお寄せください。

【編集後記】

気候変動についての市民の意識を11か国で国際比較すると、「自分の行動が気候変動に与える影響を気にする人の割合」は日本が最低！「気候変動対策のために自分の消費を制限することができる」とした割合も日本が最低！という結果だった（2021～22年BCG調査）。なぜ日本人は意識が低く自分事でないのか？意識の高い人の行動で底上げを図れないかと期待している。(S.N)

〒411-0858 静岡県三島市中央町5-5

三島市役所中央町別館 環境政策課内「エコライフみしま」編集事務局

TEL:055-983-2647 FAX:055-976-8728 E-mail: kankyou@city.mishima.shizuoka.jp